令和３年度「地域部活動推進事業」成果報告書

静岡県教育委員会

Ⅰ　実践研究の概要

（１）静岡県における実践研究の活動拠点

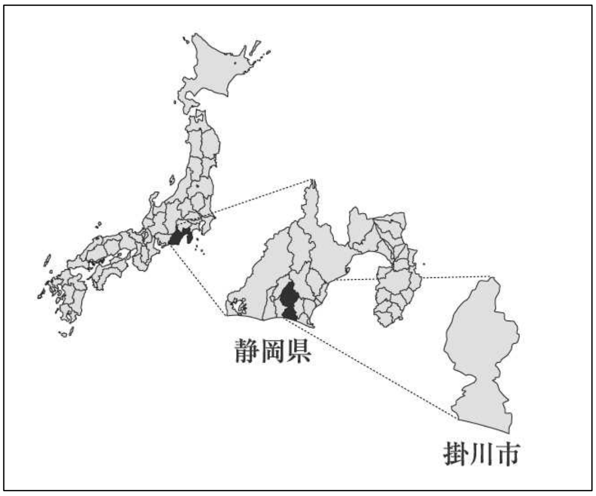
スポーツ庁（以下、「スポ庁」という。）の委託を受けた静岡県教育委員会（以下、「静岡県教委」という。）は、掛川市教育委員会（以下、「掛川市教委」という。）に再委託して、実践研究を行った。再委託先は、希望調査において実施の意向を示した２市の中から、企画提案書の内容を踏まえて掛川市教委を選出した。静岡県教委は、スポ庁との委託契約の後、掛川市教委に再委託、掛川市教委は、地域のスポーツ活動の中心である NPO 法人掛川市スポーツ協会（以下、「掛川スポ協」という。）への再々委託により、掛川市立中学校２校の水泳部の活動について地域移行を見据えた実践研究を行った。

（２）自治体情報

①掛川市の概要

静岡県西部に位置し、静岡県内の政令市である静岡市と浜松市の中間にあり、中東遠地域の中核的存在の市である。

人口　117,383 人
面積　265.69 ㎢
人口密度　442 人/㎢



②掛川市立中学校（令和３年度）

市内９中学校　生徒数 3,237 人

③掛川市の特徴的なスポーツ環境

- 総合型地域スポーツクラブ「掛ＳＰＯ」（以下、「掛ＳＰＯ」という。）で 160 を超える教室を展開している。
- 掛川スポ協には「26」の競技団体が加盟し、連携している。
- 掛川スポ協は、各種大会（掛川市城下町駅伝競走大会、掛川・新茶マラソン、掛川市武道大会、市民スポーツ交流フェスティバル等）を開催している。
- 実業団チームである NEC プラットフォームズソフトボール部が市内中学校ソフトボール部に対しクリニックを開催している。

④掛川市の指導者の状況

- 公益財団法人日本スポーツ協会　公認スポーツ指導者資格有資格者　49 人
- 部活動指導員　７人　（待機リストに３人登録）
- 総合型地域スポーツクラブに登録している地域指導者　116 人

⑤掛川市のスポーツ施設（11 施設）

・いこいの広場　　95,900 ㎡
・安養寺運動公園　　53,428 ㎡
・下垂木多目的広場「ゆうゆうパーク」　　20,337 ㎡
・東遠カルチャーパーク総合体育館「さんりーな」　　10,578 ㎡
・掛川海洋センター　　1,102 ㎡
・大東海洋センター　　1,984 ㎡
・大須賀海洋センター　　5,908 ㎡
・大東総合運動場　　95,626 ㎡
・大東北運動場　　37,412 ㎡
・掛川市南体育館「し～すぽ」　　3,384 ㎡
・大須賀運動場　　17,943 ㎡

⇒　部活動では常時活動や練習試合、大会等で適宜使用している。

⑥地域スポーツクラブの状況

ア：スポーツ少年団　　50 団体
野球 21　、　バレーボール 14　、　サッカー４　、　剣道３　、
バスケットボール２　、　ソフトボール２　、　バドミントン２　、
空手１　、　新体操１

イ：総合型地域スポーツクラブ「掛ＳＰＯ」　　約 160 教室
体操（体育活動含む）26　、　水泳 15　、　ダンス 12　、　硬式テニス 10　、
フィットネス９　、　新体操９　、　トランポリン８　、バドミントン６　、
ソフトテニス５　、　空手４　、　ゴルフ４　、　卓球４　、　フットサル３　、
バスケットボール３　、　太極拳３　、　バレーボール３　、　合気道２　、
銃剣道２　、　剣道２　、　サッカー２　、　バレエ２　、　弓道１　、
なぎなた１　、　ティーボール１　、　タグラグビー１　、　氣功健康法１　、
パドリング１　、　ソフトボール１　、　陸上競技１　、社交ダンス１　、
フーバ１　、　ヨット・カヌー・ＳＵＰ１　、　マラソン１　、日本舞踊１
その他

※ 部活動との連携状況　：　掛ＳＰＯ内に運動部員のための強化コースを設置

（３）実践研究拠点校及び活動拠点について

①拠点校の情報

ア：掛川市立西中学校　　教員数　35 人　、　生徒数　642 人　（以下、掛西中）
運動部活動数　13 部活　、　運動部員数　459 人

イ：掛川市立東中学校　　教員数 34 人　、　生徒数 586 人　　（以下、掛東中）
運動部活動数　13 部活　、　運動部員数　390 人

両校ともにＪＲ掛川駅から徒歩 15 分程度の位置にある。学区は広く、自転車通学の生徒も多数在籍している。

②実践研究部活動

ア：掛西中水泳部

（顧問）熊膳　佳美　　教職31年目、掛西中勤務５年目、水泳部指導経験５年、専門種目：ソフトボール

部員：２年生12人（男：11人、女：１人）
　　　１年生13人（男：10人、女：３人）
　　　⇒その内、地域移行のクラブに所属する生徒
　　　　２年生12人（男：11人、女：１人）
　　　　１年生12人（男：９人、女：３人）

活動：週４日（平日３日、休日１日活動）
　　　※掛川市部活動ガイドラインで示されている活動頻度
　　　※部費は大会参加料や温水プール使用料を適宜集金

イ：掛東中水泳部

（顧問）増田　有希　　教職13年目、掛東中勤務３年目、水泳部指導経験２年、専門種目：水球

部員：２年生10人（男：６人、女：４人）
　　　１年生13人（男：13人、女：０人）
　　　⇒その内、地域移行のクラブに所属する生徒
　　　　２年生７人（男：４人、女：３人）
　　　　１年生12人（男：12人、女：０人）

活動：週４日（平日３日、休日１日活動）
　　　※掛川市部活動ガイドラインで示されている活動頻度
　　　※部費は大会参加料や温水プール使用料を適宜集金

※地域移行のクラブに入らない主な理由　（１・２年生対象）

掛西中（１人）：体調等の理由（１人）
掛東中（４人）：外国籍の生徒。保護者の送迎困難。参加見送り。（１人）
　　　　　　　　スイミングスクールに通っている。（１人）
　　　　　　　　体調等の理由（２人）

③実践研究拠点校となった背景・理由

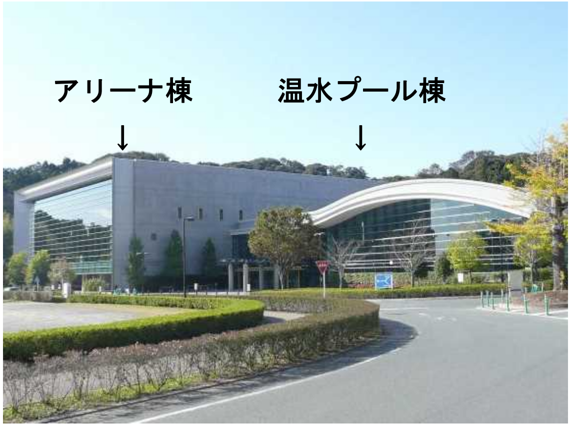
- 掛西中は掛川市教委より「働き方改革の指定研究校（令和２年～４年）」に指定されている。
- 両校とも、水泳部の顧問は、競泳の指導経験が十分でなかった。
- 両校とも、夏季は学校のプールを利用して活動、冬季は実践研究の活動拠点となる東遠カルチャーパーク総合体育館「さんりーな」（以下、さんりーな）を利用して活動していた。
- 火曜日と日曜日の部活動を掛川スポ協が設置する掛川水泳クラブの活動に代えて実施、掛川市水泳協会会長や地域の水泳指導経験者が指導するに至った。

④地域移行の活動拠点

水泳部の活動について、地域移行する際の活動拠点は、「さんりーな」で、拠点校である掛西中学区内にある。この施設は、掛川スポ協が指定管理者として管理している施設で、「掛ＳＰＯ」の事務局があり、地域のスポーツ活動の拠点となっている。掛川スポ協の事務局は、この施設に隣接する掛川Ｂ＆Ｇ海洋センター内にあり、周辺一帯が掛川市のスポーツ活動の象徴的なエリアとなっている。

●東遠カルチャーパーク総合体育館「さんりーな」

※施設外観



※プール内観

メインアリーナの他に、温水プール、武道場、弓道場、スタジオ、トレーニング場等の複合的なスポーツ施設になっている。

（４）掛川市の考える将来像

①掛川市教委の計画

運動部活動の地域移行に関する具体的な計画は完成していない。令和４年度中に策定する予定になっている。

②目指す方向性

掛川市教委では、平日も含めた運動部活動の地域展開を考えている。

ア　中学校区学園化構想の考え方のもと、地域で子どもを育てる新たな「部活動観」へと転換

イ　部活動の運営方法の変更（学校管理から地域団体管理へ）

ウ　ニーズに応じた種目の設置

エ　複数地区から参加できる活動の仕組み整備

オ　持続可能な運営体制へ向けた循環する指導者確保、育成の仕組み

Ⅱ　実践研究の実績

（１）指導者に関する情報

①運営団体について

特定非営利活動法人　掛川市スポーツ協会

【沿革】

昭和 21 年	掛川町体育協会創立
昭和 29 年	掛川町体育協会から掛川市体育協会に改称
平成 14 年　４月１日	特定非営利活動法人掛川市体育協会設立
５月 31 日	掛川市体育協会解散
平成 15 年	総合体育館「さんりーな」開館、総合体育館「さんりーな」、B&G 海洋センターの管理運営を受託開始
平成 17 年	掛川総合スポーツクラブ創設、4 月より活動開始 ゆうゆうパークの管理運営を受託開始
平成 18 年	３地区体育協会合併（掛川市、旧大東町、旧大須賀町） 指定管理業務開始（さんりーな、Ｂ＆Ｇ、ゆうゆう、旧大須賀町施設）
平成 19 年	市内全公共スポーツ施設の指定管理業務開始（全 14 施設）
平成 22 年	新規事業として、体協農園（掛ファーム）、体協ツーリスト（掛ツアー）、掛マネー「い～さ」を開始 掛川市初の国際大会「2010 インドパシフィックトランポリン掛川大会」開催（さんりーな）
平成 25 年	第 10 代会長　雑賀祥宣
平成 26 年	掛川市南体育館「し～すぽ」開館、「し～すぽ」指定管理業務開始
平成 27 年	第 10 回記念 掛川・新茶マラソン開催
平成 29 年	市内 12 スポーツ施設、新たに指定管理業務開始（掛川市体協・ミズノ・鹿島建物 協働体）
令和３年	特定非営利活動法人掛川市体育協会から特定非営利活動法人掛川市スポーツ協会へ改称

・運営団体の確保方法

掛川市との連携実績により、運営団体を確保した。

・確保における課題、それに対する工夫、対応策

部活動の地域展開は市のスポーツ振興につながるため、十分な連携ができている。

②指導者について

・指導者の基礎情報

指導者１　70 代男性、水泳競技歴８年、指導歴 17 年、元県内高等学校水泳部顧問、掛川市水泳協会会長、報酬は１時間あたり 1,600 円

指導者２　60 代女性、水泳競技歴６年、指導歴１年、水泳競技役員Ｂ級、県内高等学校教師、報酬は１時間あたり 1,600 円

指導者３　30 代男性、水泳競技歴７年、指導歴 13 年、B&G 財団公認センターインストラクター、日本赤十字水上安全法救助員ⅠⅡ指導員、報酬は１時間あたり 1,600 円

・確保方法

掛川スポ協より紹介

・確保における課題、それに対する工夫、対応策

指導者の持続可能性には課題がある。現在は、元教員の指導経験者がいるが、将来的にその絶対数は減少する。各競技団体で指導者の育成や確保に努める必要がある。

（２）活動場所に関する情報

①活動場所：東遠カルチャーパーク総合体育館「さんりーな」

所在地：静岡県掛川市大池 2250　　TEL0537-22-5553

温水プール：可動床を備えた 25ｍプール、６コース

②活動場所の確保方法

運営団体が指定管理

③確保における課題、それに対する工夫、対応策

練習で使用する際は、コースを占有して使用する。一般市民の使用もあるため、スケジュール調整に課題がある。今回の水泳の取組は休館日や早朝に使用した。

（３）活動日程及び活動内容、参加者の状況

①７月 31 日の説明会

説明会参加　・・・・　保護者

当日は、掛西中（23 人）、掛東中（18 人）の保護者が参加した。当日欠席した方に対しては、学校を通じて地域クラブについての案内を配付した。

＊説明会当日の内容

１　趣旨説明（掛川市教育委員会）

２　掛川水泳クラブの紹介（掛川市スポーツ協会）

(1) 活動内容（会員規約、申込）、スケジュール説明、連絡網等

(2) 講師紹介（土屋先生、三浦先生、神力先生）

3　質疑応答（特になし）
4　閉会
閉会後に、保護者から火曜日の部活動が実施されるかどうかの質問があったが、両顧問と協議し原則として火曜日の部活動は実施せず、水泳クラブの活動に代えることとした。この件については、一斉メールで全保護者へ回答した。

②７月 31 日の体験会（学校部活動として実施）
体験会参加生徒人数
掛西中（23 人）、掛東中（20 人）　　※参加したのは１・２年生

③８月３日の体験会（地域クラブ活動として実施）
※保険には部員全員を加入させて実施
体験会参加生徒人数
掛西中（21 人）、掛東中（18 人）　　※参加したのは１・２年生

④各月の活動詳細
●10 月の活動

期日	会場	所属	参加人数	活動内容	欠席人数	欠席の主な理由
10 月３日（日）	さんりーな	西中	16 人	スイム 2450m	8 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	15 人		4 人	
10 月５日（火）	さんりーな	西中	18 人	スイム 3200m	6 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	13 人		6 人	
10 月 10 日（日）	さんりーな	西中	17 人	スイム 2900m	7 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	11 人		8 人	
10 月 12 日（火）	さんりーな	西中	22 人	スイム 3300m	2 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	9 人		10 人	
10 月 17 日（日）	さんりーな	西中	19 人	スイム 3300m	5 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	17 人		2 人	
10 月 19 日（火）	さんりーな	西中	22 人	スイム 3300m	2 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	10 人		9 人	
10 月 24 日（日）	さんりーな	西中	16 人	スイム 4200m	8 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	13 人		6 人	
10 月 26 日（火）	さんりーな	西中	16 人	スイム 3300m	8 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	6 人		13 人	
10 月 31 日（日）	さんりーな	西中	14 人	スイム 4000m	10 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	15 人		4 人	

●11 月の活動

期日	会場	所属	参加人数	活動内容	欠席人数	欠席の主な理由
11 月 2 日 (火)	さんりーな	西中	20 人	スイム 3600m	4 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	13 人		6 人	
11 月 7 日 (日)	さんりーな	西中	18 人	スイム 3800m	6 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	18 人		1 人	
11 月 9 日 (火)	さんりーな	西中	18 人	スイム 3600m	6 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	15 人		4 人	
11 月 14 日 (日)	さんりーな	西中	14 人	スイム 3800m	10 人	体調不良、習い事、ワクチン接種
		東中	14 人		5 人	
11 月 16 日 (火)	さんりーな	西中	8 人	スイム 3700m	16 人	体調不良、習い事 テスト前
		東中	14 人		5 人	
11 月 21 日 (日)	さんりーな	西中	18 人	スイム 3900m	6 人	体調不良、習い事
		東中	16 人		3 人	
11 月 23 日 (火祝)	さんりーな	西中	18 人	スイム 3700m	6 人	体調不良、習い事
		東中	13 人		6 人	
11 月 28 日 (日)	さんりーな	西中	17 人	スイム 4200m	7 人	体調不良、習い事
		東中	18 人		1 人	
11 月 30 日 (火)	さんりーな	西中	16 人	スイム 3900m	8 人	体調不良、習い事
		東中	15 人		4 人	

●12 月の活動

期日	会場	所属	参加人数	活動内容	欠席人数	欠席の主な理由
12 月 5 日 (日)	さんりーな	西中	17 人	スイム 4000m	7 人	体調不良、習い事
		東中	14 人		5 人	
12 月 7 日 (火)	さんりーな	西中	17 人	スイム 3900m	7 人	体調不良、習い事
		東中	14 人		5 人	
12 月 12 日 (日)	さんりーな	西中	16 人	スイム 2100m 記録会	8 人	体調不良、習い事
		東中	18 人		1 人	
12 月 14 日 (火)	さんりーな	西中	19 人	スイム 3900m	5 人	体調不良、習い事
		東中	15 人		4 人	
12 月 19 日 (日)	さんりーな	西中	17 人	リレー大会	7 人	体調不良、習い事
		東中	18 人		1 人	
12 月 21 日 (火)	さんりーな	西中	17 人	生徒考案ﾒﾆｭｰ スイム 4100m	7 人	体調不良、習い事
		東中	14 人		5 人	

●１月の活動

期日	会場	所属	参加人数	活動内容	欠席人数	欠席の主な理由
１月５日(火)	さんりーな	西中	17 人	スイム 3900m	7 人	体調不良、習い事
		東中	15 人		4 人	
１月９日(日)	さんりーな	西中	19 人	スイム 4100m	5 人	体調不良、習い事
		東中	17 人		2 人	
１月 11 日(火)	さんりーな	西中	5 人	スイム 4100m	19 人	体調不良、習い事 テスト前
		東中	8 人		11 人	
１月 16 日(日)	さんりーな	西中	18 人	スイム 4100m	6 人	体調不良、習い事
		東中	19 人		0 人	
１月 18 日(火)	さんりーな	西中	19 人	スイム 3000m 閉講式	5 人	体調不良、習い事
		東中	15 人		4 人	

●活動の集計

実施日・回数	所属	参加者		欠席者		欠席の主な理由
		人数	参加率	人数	欠席率	
火曜日実施　14 回	西中	234	69.6%	102	30.4%	体調不良 習い事 ワクチン接種 テスト前
	東中	176	66.2%	90	33.8%	
日曜日実施　15 回 (祝日含む)	西中	254	70.6%	106	29.4%	
	東中	236	82.8%	49	17.2%	
総計　29 回		900	72.2%	347	27.8%	

●個別練習計画（一部抜粋）

練　習　計　画

10/3　7:00～8:30　合同練習会　8:30～9:00 神力先生アンケート調査

練習時間　110’00”

・体操・柔軟体操

・練習の説明　**日曜日練習は、基本を中心に(正しい姿勢)・食事・睡眠・学習**

Up	100m× 1　IM	3’00”0S　4 種目できない生徒は得意種目でよい	
Do	25m×10	蹴伸びからストリームライン習得	1’00”0S
	25m×10	スカーリング習得(うつ伏せ)	1’00”0S
	25m×10	キャッチアップスイム	1’00”0S
K	25m×10	HK ボート	1’00”0S
	25m×10	ボード(ストリームライン意識)	1’00”0S
P	25m×10	パドル	1’00”0S
	25m×10	パドルなし	1’00”0S
SW	50m×10	大きい泳ぎを意識	1’30”0 S
Dw	100m×1　Ch	自分の好きな２種目で	

Total　2450m

練　習　計　画

１２/１２ 7:00～9:00

練習時間　A→105’0　B→115’0　シート係協力しよう

・体操・柔軟体操（練習中に足などがつらないようしっかり取り組む）

・練習の説明　努力目標　・特に柔軟・ストレッチをしっかり行う。

・記録会を全力で

Up	100m×1　IM 100m×1 IMRe	200	2’30”0S　４種目できない生徒は得意種目でよい	
Do	50m×10	700	キャッチアップスイム(蹴伸びしっかり) (キャッチアップ 12.5+Sw12.5)×2	A→60”0　B→75”0
	50m×8	1100	ヘッドアップスイム(ひじの高さ意識) (ヘッドアップスイム 12.5+スイム 12.5)×2	A→60”0　B→75”0
K	50m×10	1600	ボード	A→75”0　B→90”00
P	50m×8	2000	パドル(キャッチング・肘の高さを意識)	A→60”0　B→75”0
	記録会説明			
記録会	2年生より順次行う。		50mFr×1　飛び込み台使用 壁スタートでもよい 次回日曜日のリレー大会チームつくりに活用する。	キックを最後までしっかり打つ
Dw	100m×1	2100	自分の好きな２種目で	

Total　2100m

（４）研究協議の場に関する情報

①地域部活動研究委員会の開催

ア　有識者、関係団体、行政関係者からなる研究委員会を設置。年間３回開催し、実践研究の報告・協議、今後の方向性に関する検討等を実施した。

＊第１回　令和３年６月 14 日(月)　14:00～16:30　掛川市教委

・研究経過の報告及び協議（各種アンケート報告、地域移行の企画協議）

＊第２回　令和３年９月 21 日(火)　14:00～16:30　掛川市教委、オンライン

・活動報告、掛川市地域部活動推進事業計画検討、次年度の構想協議

＊第３回　令和４年１月 20 日(木)　14:00～16:30　掛川市教委、オンライン

・地域クラブ及び地域指導者公認資格の検討、市民への広報に関する協議

②委員会の構成員

（有 識 者）	長沼　豊（委員長）	学習院大学教授
（関係団体）	石山　近	小笠支部中学校体育連盟会長 （掛川市立西中学校長）
	増田有希	掛川市立東中学校水泳部顧問
	熊膳佳美	掛川市立西中学校水泳部顧問
	小池正浩	特定非営利活動法人掛川市スポーツ協会 スポーツプロモーション課長
（行政関係）	中山善文	掛川市文化・スポーツ振興課長
	竹村　祐	静岡県教育委員会健康体育課参事
（事 務 局）	静岡県教育委員会健康体育課学校体育班 掛川市教育委員会教育政策課、学校教育課	

③その他関連する関係者の情報

＊コーチングデベロッパー

神力亮太　氏　（常葉大学健康プロデュース学部心身マネジメント学科助教）

指導者の質を確保するために設置。指導している指導者の指導法に関する指導助言を実施。

（５）指導者育成のための実践

①第１回指導者講習会

６月 30 日（水）　19:00～21:00　会場：さんりーな研修室

講　師：コーチングデベロッパー　神力亮太　氏

参加者：29 人（対面 18 人、リモート 11 人）

内　容：「コーチングのインテグリティについて

～コーチはプレーヤーに何をすることができるのか～」

スポーツのインテグリティ（高潔さ、誠実さ）を保つためには指導における暴力やハラスメント、人種差別、ガバナンス・コンプライアンスの

欠如などあってはならないことや子ども達に指導するにあたって何を目的にコーチングしていけばいいのかなどについての講義。

②第２回指導者講習会

11 月 17 日（水）　19:00～21:00　　会場：さんりーな研修室

講　師：中東遠総合医療センター理学療法士 甲賀英敏　氏

（静岡県高等学校野球連盟メディカルサポート代表）

参加者：28 人（対面 19 人、リモート９人）

内　容：「心身ともに万全な状態で次のカテゴリーに選手を送り出すために指導者が考えること」

理学療法士という観点から現代の子ども達に起きている「基礎体力運動能力」の低下を防ぐために子どもの頃にやるべきことや成長期における身体の変化（成長）とそれに伴う故障のリスク予防、関節の特徴などについての講義。

Ⅲ　実践研究の成果と課題

（１）実践研究の結果得られた成果、他校にも横展開し得るノウハウ

①地域団体が管理する仕組み（地域指導者負担軽減）

②平日の地域移行による顧問の負担軽減

③複数校から参加することの子の人間関係の広がり、モチベーションの増加

④地域指導者による専門的な技術指導のよさ、元教員の教育的視点のよさ

（２）掛川市が設定した達成目標と検証

①各学校または「さんりーな」での体験練習会 10 回実施

・５月：８回、７月：１回、８月：１回実施。コロナの影響により、１回中止。

②冬季日曜練習会 14 回実施、冬季火曜練習会 15 回実施

・10 月～１月にかけて１回２時間のクラブ活動を 29 回実施。

・火曜日１回、日曜日２回、コロナの影響により中止。

③生徒及び保護者の水泳クラブ活動に対する満足度に関するアンケート調査平均値 3.0 以上

・水泳クラブ活動に対する満足度アンケート調査を４点法（４：満足している、３：どちらかといえば満足している、２：どちらかといえば満足していない、１：満足していない）で行った結果、次の通りの結果であった。

・生徒の満足度　：　平均値 3.6

・保護者満足度　：　平均値 3.8

④顧問の 10 月から１月の部活動従事時間を前年度比 70%程度

・10～１月の休日の部活動従事時間　前年度比　 0.0%

（Ｒ２から約 25 時間減　　Ｒ２：約 25.0 時間　⇒　Ｒ３：０時間へ）

・10～１月の平日の部活動従事時間　前年度比　62.1%

（Ｒ２から約 10 時間減　　Ｒ２：約 26.4 時間　⇒　Ｒ３：約 16.4 時間）

※水泳部顧問の休日・平日（火・木・金）の部活動従事時間：２校平均）

（３）掛川市によるその他検証

①事務局組織への評価

地域クラブコーディネーター兼事務局として、各練習会に１人以上のスタッフを配置したが、生徒や保護者からの連絡対応やスケジュール管理、会場管理を指導者ではないスタッフが担うことで指導者の負担を軽減した。保護者アンケートでも、約 58%の保護者がこの事務局管理体制を取組の良さに挙げている。

②受益者負担と活動継続に対する意識調査

クラブ運営に係る費用については、水泳クラブを継続した場合の試算を保護者に示してアンケートを実施した。週１回実施時は月額 4,000～5,000 円、週２回実施時は月額 6,000～7,000 円の家庭負担が発生する。約７割の保護者は自己負担をしてクラブ活動を継続すると希望した一方、約３割の保護者は費用負担を理由に継続を希望しなかった。

（４）実践研究の結果判明した課題

①活動費用の負担

・これまで、顧問の手当ては市費ではなかったため、市負担となった場合の財政負担が増すこと

・保護者負担とした際には、経済的な理由でスポーツ活動をあきらめる生徒が出る場合があること（就学援助の枠を拡大した場合にも市の財政負担が増す）

②活動会場の確保、調整（社会体育との兼ね合い）

・平日放課後や休日の学校施設は部活動が優先して使用し、夜間は社会体育に開放されていた。

・今後、部活動を地域クラブとして地域が管理する場合、夜間の使用も考えられるため、社会体育の活動場所に影響が出る。

・一方、土日の学校施設は、空いている場合が多いため、予約システムを見直すことで、社会体育の活動の幅が広がることも期待される。

③持続可能な活動体制のための指導者の確保（各競技団体の育成）　※大会運営も含む

・部活動地域展開後もしばらくは、顧問経験のある教員が関わりながら運営することが可能だが、今後はそのような人材は減ることが予想される。また、各競技団体の指導者は高齢化が進み、指導体制や大会運営などの持続可能性で不安が残る。

④指導者の育成（教育的視点のある指導スキル）

・多感な中学生への指導には、技術指導だけでなく、教育的視点をもった関わり方が必要になる。

⑤保護者や地域への理解（費用負担、会場移動など）

・従来の部活動は保護者の経済的負担としては、非常に少ない方法であったことから、新たな制度への移行については、抵抗を感じる保護者も多いと考えられる。
・水泳部の実践研究でも保護者の３割は費用負担を理由に、クラブ活動の継続に賛同しなかった。

（５）課題に対する工夫及び今後の方向性

①活動費用の負担

・掛川スポ協による費用試算、アンケートの実施

②活動会場の確保、調整

・学校施設を含めた市内施設の予約システム整備

③指導者の確保

・各競技団体と連携した指導者募集、紹介
・教員の兼職兼業のガイドライン作成

④指導者の育成

・公認指導者資格制度の整備
・地域指導者向け研修会の開催
・部活動指導員の積極配置

⑤保護者や地域への理解

・積極的な広報
・部活動地域展開基本計画、パブリックコメント

Ⅳ　実践研究のまとめ

（１）全体方針

県教育委員会では、「令和５年度以降の段階的な地域移行」は「できること」から「できるところで」という国の考えのもと、今後の全国的な地域移行の動きを慎重に見守る必要があると考えている。現段階で県としては、全国的な事例を各市町教育委員会に情報提供し、今後の国の方針等に関する情報をできるだけ丁寧に集めることとしている。

また、地域移行する際に指導者となる可能性のある各団体、関係者に現在の状況を情報提供し、県として連携を深めることも必要と考えている。県内各市町からは、「指導者

の確保（人数、質）」、「学校現場、家庭の理解」、「費用負担（受益者負担）への理解」、「生徒指導的な情報共有」等に懸念があるとの意見もあるので、学校、地域、各家庭等の関係者に周知をすすめるために、正確な情報や国の方針を見極めた対応を検討していく予定である。

（２）費用負担

令和５年度以降、段階的に休日の地域移行を進めた場合、先行して地域移行を進めた部活動が「市負担」「保護者負担」などの受益者負担をお願いすることに関しては、大変難しい説明が求められる。これまで、学校部活動の顧問の手当てが県費等により支払われていることを踏まえ、今後の指導者謝金の負担の在り方についても、国としての方針、事業設計等についての情報提供をお願いしたい。

（３）大会の在り方

中学校の運動部の大きな大会は中学校体育連盟等が主催する総合体育大会だが、地域クラブ運営となった際の大会参加資格は生徒や保護者の最大の関心事のひとつである。今回、スポーツ庁は平日も含めた地域移行を妨げないとしているが、その場合、完全に地域団体が運営するクラブとしての活動になる種目も現れる可能性がある。学校外の活動として実践研究を先行した部活動が大会に参加できない状況は好ましくないため、地域団体が運営するクラブでも参加できるような大会を協会主催大会で確保できるようにする必要がある。中体連大会における、参加資格の見直しや、指導者の引率要件の見直しなどについても、日本中体連の方針を注視していきたい。